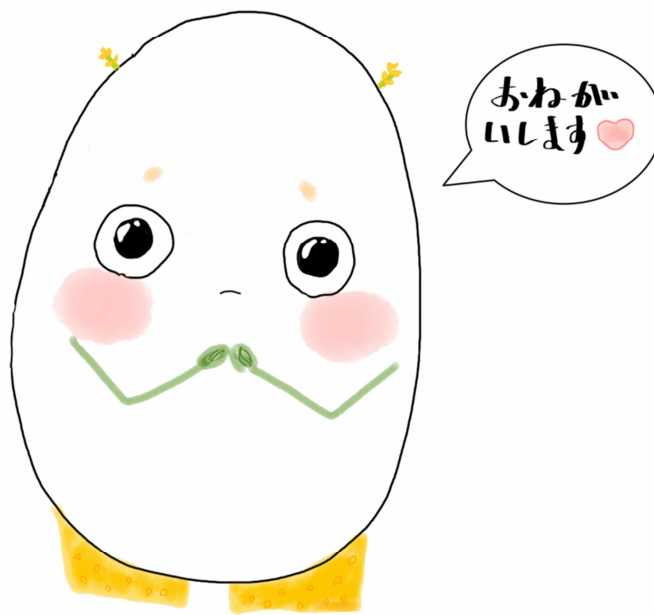


第4回（最終回予定） 安平町町民まちづくり会議 議 案

安平町への移住をおねがいする顔



令和5年度卒業の早来学園9年生が授業で作成した町非公式キャラクター「あびたまなっちー」

子ども達にも安平町に親しみを持ってほしいと願いから創られた。

日 時 令和8年6月30日（火）

場 所 安平町役場 総合庁舎（2F 中会議室1）

第2次安平町総合計画の検証

第2次安平町総合計画の振り返りと次期計画に向けて

第2次安平町総合計画（以下、「第2次計画」と言う。）では、まちづくりの目指すべき方向性を「将来にわたって子どもの声が地域に響き、若者・子育て世代で賑わうまち」と定め、一体感の醸成と均衡ある発展を目指して『育てたい 暮らしたい 帰りたい みんなで未来へ駆けるまち』という将来像を描き、各種の施策に取り組んできました。

第1次安平町総合計画（以下、「第1次計画」という。）では、事業実施率（アウトプット）を主軸に評価を実施したものの、住民ニーズとの不一致や事業間の連携不足といった課題が残り、目標人口の未達成という反省がありました。この教訓を踏まえ、第2次計画では「施策ごとに達成すべき成果指標を明確にし、適正な成果検証を行う」ことを明記し、アウトプット評価から「結果としてどうなったか」を問うアウトカム評価へ転換しました。そして、各種施策の成果としての最上位目標に①『人口7,500人を維持』と②『安平町が好きな人・暮らし続けたい人を90％へ高める』を掲げています。

ここでは、成果検証のために設定したKPI（重要業績評価指標）について、第2次計画期間中にどのように進捗し、上記2つの最上位目標にどのような影響を及ぼしたのかという結果を踏まえ、今後のどのように進めていくかという方向性について検討します。

なお、この検証に当たっては、令和7年7月に実施した『安平町まちづくり町民アンケート』の結果や、令和8年4月から6月にかけて実施した『安平町町民まちづくり会議』等での議論を踏まえています。

1. 第2次計画(後期基本計画)の成果指標からみる進捗状況

(1) 政策全体

第2次計画では、政策分野を「Ⅰ 子育て・教育」から「Ⅵ 行財政運営」までの6つに大別し、施策を展開しました。

政策分野	指標本数				【進捗状況の考え方(凡例)】 現状値と目標値、実績値(R7)を比較 ■実績値が目標値以上 「↑」 ■実績値が現状値以上、目標値未満 「→」 ■実績値が現状値未満 「↓」
Ⅰ 子育て・教育	22	10 (45.46%)	4 (18.18%)	8 (36.36%)	
Ⅱ 人づくり・コミュニティ	15	7 (46.66%)	4 (26.67%)	4 (26.67%)	
Ⅲ 経済・産業	17	14 (82.35%)	3 (17.65%)	0 (00.00%)	
Ⅳ 健康・福祉	18	8 (44.44%)	8 (44.44%)	2 (11.12%)	
Ⅴ 生活環境・生活基盤	23	17 (73.91%)	4 (17.39%)	2 (8.70%)	
Ⅵ 行財政運営	9	4 (44.44%)	2 (22.23%)	3 (33.33%)	
計	104	60 (57.69%)	25 (24.04%)	19 (18.27%)	
【参考】R6 年度末計	104	49 (47.11%)	39 (37.50%)	16 (15.39%)	

合計104本の指標項目のうち、85項目が「目標値以上（矢印が上向き）」又は「実績以上目標未満（矢印が平行）」で、合わせて約82%が達成又は改善中となっています。これは、中期計画検証時から約13ポイント進捗（達成・改善）しており、震災復興からコロナ禍という、立て続けに発生した厳しい環境下においても、着実にまちづくりが進められていることを示したものと捉えています。目標値を上回る項目が約58%、目標値に向かって推移する項目が約24%と、80%強が順調に進捗しています。

（２）政策分野別

各政策分野における詳細については、次の通りです。

基本 施策	指標項目	単位	(年度)現状値	(年度)実績				目標値	進捗 状況
				R5	R6	R7	R8	R8	
	【政策分野 I 子育て・教育】								
1	合計特殊出生率	人	1～3	1.53	1.16	0.97	0.91	1.70	⬇️
1	年間の出生者数	人	3	46	23	30	23	42	⬇️
1	子育てへの不安・負担を感じる保護者の割合	%	1	59.2	未実施	56.0	56.0	45	⬇️
1	乳幼児健康診査受診率の向上	%	1～3	98.6	100	98.0	93.3	95%以上	⬇️
2	認定こども園の待機児童数	人	3	0	0	0	2	0	⬇️
2	認定こども園と連携した有資格者の確保数(保育教諭)	人	1～3	4	累計5	累計5	累計5	累計4	⬇️
2	子どもの発送と意見で行われる遊育事業の実施数	事業	3	18	累計16	累計20	累計32	累計60	⬇️
3	義務教育学校の導入数	校	3	0	累計1	累計1	累計1	累計2	⬇️
3	全国学力・学習状況調査(全科目全国平均正答率)	-	3	全国平均正答率以上	1/2、3/3	2/2	0/2	全国平均正答率以上	⬇️
3	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(体力合計点)	-	3	4/8、7/8、5/9、7/9	3/8、5/8、4/8、3/8	5/8、5/8、3/9、7/9	6/8、3/8、4/9、9/9	全国平均以上の維持	⬇️
3	児童数・生徒数(小学校1年生の児童数)	人	44	44	51	48	53	現状維持・増	⬇️
3	〃(中学生1年生の生徒数)	人	51	51	48	44	53	現状維持・増	⬇️
3	町立学校施設改修実施件数(老朽対策)	校	3	0	累計0	累計0	累計0	累計1	⬇️
4	追分高等学校への入学者数(うち地元中学校からの入学者割合)	人	3	29	17	33	26	40	⬇️
4	〃	%	3	10	12	15	23	30	⬇️
4	追分高等学校からの進学・就職率	%	3	100	100	100	100	100	⬇️
5	児童館・児童センターの利用者数	人	3	16,894	19,040	18,933	19,031	現状維持	⬇️
5	放課後児童クラブの待機児童数	名	3	0	0	0	0	0	⬇️
5	家庭教育に関する事業数と参加人数	事業	3	2	3	3	3	現状維持	⬇️
5	〃	人	3	96	74	79	110	現状維持	⬇️
6	ふるさと教育・学社融合事業数	事業	3	41	47	65	23	現状維持	⬇️
6	社会教育活動への参加者数	人	3	17	26	26	14	80	⬇️
	子育て・教育進捗状況 小計	10:	⬇️	4:	⬇️	8:	⬇️		

【指標の分析】

22本の指標項目のうち、約45%が「目標値以上」、約18%が「現状値以上 目標値未満」となっており、合わせて64%が達成又は改善中となっています。

「現状値未満」の指標は8本で、中期計画検証時から3本減少し、約37%となっています。主に「出生数」・「学力」・「社会教育事業」で目標値を下回っている状況です。

【内容の分析】

安平町の復興のシンボルとして整備を進めた早来中学校の再建は、域内小学校3校との統合により義務教育学校「安平町立早来学園」として、令和5年度に開校することができました。これにより、子育て世代の転入促進という成果が得られた一方で、想定を上回る同学園への入学や、はやきた子ども園への入園希望により施設能力を超える（教室不足と同園の待機児童の発生）という新たな課題が顕在化しています。これは、従来の「出生数や出生率」という課題に加え、現在の「定住ニーズ」への対応が急務であることを示していると考えられます。

一方で、コロナ禍以降、やむを得ず制限してきた社会教育関連事業は徐々に再開され、「あびら教育

プラン」等の町独自事業も強化されていきました。また、移住者と既存住民とが一体となって新たな地域コミュニティや活動団体の動きが活発化してきており、その成果が数値指標には表われにくいものの、これらは町の活力として高い効果を発揮しているものと考えられます。

【今後の方向性】

2022年から4期連続で社会増となっている昨今の情勢と、出生数が増加しない社会的背景の双方を踏まえながら、転入需要と少子化に伴う出生率低下の双方を考慮した施設整備面とソフト面の両面から、適正かつ持続可能な保育・就学前教育・義務教育の提供体制を見直す必要があります。

また、社会教育活動については、既存住民と新規転入者の協働により醸成されつつある「地域活力」を可視化・評価し、団体が自立的かつ持続的に発展できるようにし、ひいては家庭教育にも資するような伴走支援を継続していく必要があります。

基本 施策	指標項目	単位	(年度)現状値	(年度)実績				目標値	進捗 状況	
				R5	R6	R7	R8	R8		
【政策分野 II 人づくり・コミュニティ】										
	自治会・町内会等加入率	%	3	79.5	79.4	78.6	76.2		80%以上	👉
	町職員による地域サポート制度の隊員数	団体	3	15	15	14	14		18	👉
	まちづくり事業支援交付金の活用団体数	団体	3	7	累計15	累計25	累計32		累計40	👉
	町内各種団体の法人化数	団体	3	1	累計0	累計1	累計1		累計2	👉
	生涯学習フェスティバル事業数・参加人数	事業	1	16	10	14	17		現状維持	👉
	〃	人	1	1,850	1,082	1733	2358		現状維持	👉
	町内文化団体の団体数	団体	3	32	13	15	14		現状維持	👉
	鉄道の歴史に触れる機会数(鉄道資料館の開館回数)	回	3	12	15	13	11		15	👉
	スポーツセンター利用者数(屋内スケートリンク・温水プール)	人	3	25,359	35,863	38,771	36,237		27,359	👉
	1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上続けている人の割合(男性)	%	3	42.5	43	45.0	38.3		現状値以上	👉
	〃 (女性)	%	3	29.6	32.1	29.8	29.7		現状値以上	👉
	合宿所利用団体数・利用者数	団体	3	12	21	29	42		90	👉
	〃	人	3	185	772	721	2,390		1,750	👉
	安平町各種審議会等への女性委員の登用率	%	3	27.7	29.8	29.2	27.2		現状値以上	👉
	首都圏(東京23区)との連携事業数	事業	3	0	累計1	累計2	累計3		累計4	👉
	人づくり・コミュニティ進捗状況 小計	7:	👉	4:	👉	4:	👉			

【指標の分析】

15本の指標項目のうち、約47%が「目標値以上」、約27%が「現状値以上 目標値未満」となっており、合わせて74%が達成又は改善中となっています。

「現状値未満」の指標は4本で、中期計画検証時から5本減少し、約26%となっています。主に「自治会・町内会」など既存団体の加入率や組織数の減少が見られる状況です。

【内容の分析】

自治会・町内会など地縁組織については、加入率や組織数が年々減少している傾向です。その一方で、指標にはない地域おこし協力隊の活動人数やNPO法人数の増加、さらには「まちづくり事業支援交付金」を活用する団体数の増加など、新たな主体による取り組みの活性化が見られます。これらは、地域社会における活動が、従来の包括的な地縁活動から、個人の志向や特定の地域課題解決を目的とした多様な形態へと深化・変容していることが推測されます。

数値指標に表れる地縁組織の衰退と、指標外で拡大する新たなコミュニティ活力という二極化した現状は、安平町における「コミュニティの再編期」を意味しており、活動の質的転換の必要性が課題化したと捉えることができます。

【今後の方向性】

地域コミュニティの活性化に当たっては、従来の地縁組織の重要性を再確認しつつ、新たに活動を始めた多様な団体と共存し、連携できる環境を整えることが、持続可能なまちづくりの礎となるものと考えます。

引き続き、これら新旧の担い手による活動が均衡ある発展を遂げられるよう、地域特性や組織の性格に応じた柔軟な支援体制を継続する必要があります。特に、新たな活動団体が自立かつ持続的に発展できるように支援するとともに、新旧住民や多世代が交わる場づくりを支援し、コミュニティ間での「担い手の循環」を促すことで、次代に繋がる地域力を醸成していく必要があります。

基本 施策	指標項目	単位	(年度)現状値	(年度)実績				目標値	進捗 状況
				R5	R6	R7	R8	R8	
【政策分野 Ⅲ 経済・産業】									
1	環境保全型農業の取組面積	a	3	37,199	49,882	68,723	66,284	49,700	👉
1	農商工連携による6次産業化関連企業・団体数	件	3	0	累計0	累計2	累計3	累計2	👉
1	認定新規就農者数	組	3	1	累計3	累計4	累計8	累計4	👉
1	農業法人数	経営体	3	1	累計2	累計2	累計2	累計4	👉
1	造林面積	ha	3	11.62	累計22.02	49.03	55.66	累計60	👉
2	新たな立地企業件数	件	3	0	累計1	累計2	累計3	累計1	👉
3	町外に居住する町内企業従業員の移住・定住数	人	3	1	累計1	累計1	累計1	累計8	👉
3	農商工連携による6次産業化関連企業・団体数(再掲)	件	3	0	累計0	累計2	累計3	累計2	👉
3	地域資源を活用した特産品の商品化件数	件	3	8	累計9	累計15	累計21	累計12	👉
3	新規起業・創業の件数(親族以外の事業継承を含む)	件	3	0	累計6	累計10	累計10	累計5	👉
4	観光入込客数(うち道の駅来訪者数見込み)	千人	3	833	933(633)	971(653)	971(684)	1022(640)	👉
4	合宿所利用団体数・利用者数(再掲)	団体	3	12	21	29	42	90	👉
4	〃	人	3	185	772	721	2390	1750	👉
4	グリーンツーリズム関連施設数	施設	3	0	累計0	累計0	累計1	累計1	👉
5	商店数	戸	3	69	74	77	79	74	👉
5	年間商品販売額	億円	3	62.7	—	—	—	約65.5	👉
5	新規起業・創業の件数(親族以外の事業継承を含む)(再掲)	件	3	0	累計6	累計10	累計10	累計5	👉
経済・産業進捗状況 小計			14:👉	3:👉	0:👉				

【指標の分析】

17本の指標項目のうち、約82%が「目標値以上」、約18%が「現状値以上 目標値未満」となっており、「現状値未満」がなく100%が達成又は改善中となっています。

【内容の分析】

ほとんどの項目で既に目標を達成しており、現状値未満の項目がないことから、全6分野の中で最も顕著な成果をあげています。特に道の駅「あびらD51ステーション」や菜の花を中心とした観光客数の増加が、特産品開発や新規創業を誘発する好循環が生まれていると考えられます。加えて、商店数やグリーンツーリズム関連施設の増加も確認されており、産業全体が活性化していると捉えています。

一方で、「農業法人数」や「町外に居住する町内企業従業員の移住・定住数」については依然として伸び悩んでおり、計画期間内で目標を達成に向けたさらなる注力が必要です。

【今後の方向性】

観光の基盤となった道の駅を軸とした経済循環の勢いを維持拡大させるため、引き続きプロモーションやイベント活動を継続・充実させていくことで、波及効果を全産業へと浸透させる必要があります。

また、農業分野については、持続可能な農業をより強固にしていくため、有機農業と慣行農業の双方がそれぞれの強みを活かしながら共存・発展できるよう支援を続けていく必要があります。

こうした産業の成長と連動させる形の中で、昼間人口が100%を超える安平町の特性を活かして、町内企業の従業員等の町内への移住・定住を誘導し、「産業の振興」と「定住人口の拡大」を直結させるアプローチを強化していくことが重要です。

基本 施策	指標項目	単位	(年度)現状値	(年度)実績				目標値	進捗 状況
				R5	R6	R7	R8		
	【政策分野 IV 健康・福祉】								
1	町民健康寿命の延伸(75～84歳の介護認定率)	%	3.3末 16.9	16.6	16.4	16.5		15	→
1	メタボリックシンドローム基準該当者等の割合(該当者)	%	3 15.4	16.5	18.3	19.9		14	→
1	〃(予備軍)	%	3 12.3	12.3	9.9	11.7		10.2	→
1	特定健康診査受診率	%	3 39	38.5	39.9	43		60	→
1	がん検診受診率(胃・肺・大腸がん)	%	3 21	17.1	16.5	17.3		30以上	→
2	町内医療機関の確保	箇所	3 診2、歯4	現行数の維持	歯△1	現行数の維持		現行数の維持	→
2	町内医療機関における休日・夜間救急体制の確保	箇所	3 1	0	0	0		1	→
3	地域見守りネットワークの構成団体数	団体	3 66	73	73	73		75	→
3	ボランティアセンター登録者数	人	3 385	414	421	446		410	→
3	人材育成支援事業等によるボランティア資格取得者数	人	3 0	累計0	累計3	累計3		累計40	→
4	しょうがい福祉サービスの利用者数	人	3 163	172	202	199		183	→
4	東胆振圏域における地域生活支援拠点の確保	箇所	3 1	1	1	1		1	→
5	要支援・要介護認定率	%	3 19.5	20.2	20.3	20		21.3	→
5	介護予防事業(1次予防)への参加者数	人	3 860	1,862	2,050	1,324		1,050	→
5	特別養護老人ホーム待機者数	人	3 10	7	5	15		10	→
6	国民健康保険事業被保険者1人あたり療養諸費費用額	千円	3 335	360	354	317		405	→
6	介護保険事業被保険者1人あたり療養諸費費用額	千円	3 286	286	288	270		348	→
6	後期高齢者医療事業被保険者1人あたり療養諸費費用額	千円	3 837	892	913	936		1,029	→
	健康・福祉進捗状況 小計	8: →	8: →		2: →				

【指標の分析】

18本の指標項目のうち、約44%が「目標値以上」、約44%が「現状値以上 目標値未満」となっており、合わせて約88%が達成又は改善中となっています。

「現状値未満」の指標は2本で、中期計画検証時から6本減少し、約12%となっています。主に「健診」や「医療機関の確保」に関する指標が全体的に低調な状況です。

【内容の分析】

特定健診やがん検診の受診率は徐々に増加しており、こうした健康に対する意識が高まるにつれ、国民健康保険及び後期高齢者医療における一人当たりの療養諸費の抑制につながっていると考えられます。また、介護分野においても、介護認定率がやや高止まりする中でも、一次予防事業への参加意欲の高まりが、介護給付費の上昇抑制に寄与していることが考えられます。

一方で、メタボリックシンドローム該当者及びその予備軍の増加や、地域での医療機関の確保といった課題については、依然として慎重な対応が求められます。

【今後の方向性】

健康の維持・向上には、町民一人ひとりの自発的な意識の積み重ねと、それを支える地域社会の環境整備の両輪を回すことが不可欠です。これを実現するため、地域全体での見守りや協力連携による支援を引き続き推進していく必要があります。

特に、健康づくりを担うボランティア等の支援者養成やネットワークづくりを推進し、個々の取り組みを地域の活動へと結びつけていくことで、住民が住み慣れたこの町で末永く健やかに暮らすことができるまちづくりを、引き続き目指していく必要があります。

地域における医療機関の確保に関しては、既存の医療機関への適切な支援により「地域の灯を守る」ことを引き続き最優先としつつ、不足する病床や診療科などに関しては、隣接する都市地域との緊密な連携により、医療圏全体のネットワークを最大限活用することで、町民が安心して医療を受け続けられるよう取り組みを継続します。

基本 施策	指標項目	単位	(年度)現状値	(年度)実績				目標値	進捗 状況
				R5	R6	R7	R8	R8	
【政策分野 V 生活環境・生活基盤】									
1	温室効果ガスの総排出量(Co2量)	t	4	2,891	2,653	2,761	2,869	2746.45以下	▲
2	ごみの処理量(家庭系・事業系)	t	3	2,235	2,083	1,974	2,023	2,087	▲
2	公共施設の消費電力量(電力需要期)	万kwh	3	259	259	320	332	353.78以下	▲
2	再生可能エネルギーの活用事業数	件	3	累計2	累計0	累計1	累計1	累計2	▲
3	グリーンツーリズム関連施設数(再掲)	施設	3	0	累計0	累計0	累計1	累計1	▲
4	公共Wi-Fiの整備地区数	地区	3	0	累計4	累計4	累計4	累計4	▲
4	町道舗装率	%	3	63.3	63.5	63.6	63.6	63.6	▲
4	橋梁長寿命化修繕率	%	3	9.1	9.1	5.3	5.3	21.4	▲
4	水道普及率	%	3	88.5	89.4	89.4	89.5	90	▲
4	下水道普及率・水洗化率(普及率)	%	3	77.2	77.1	77.3	77.4	現状維持	▲
4	〃(水洗化率)	%	3	88.9	89.4	89.8	90.4	現状維持	▲
5	町分譲宅地の販売率・販売区画数(販売率)	%	3	95.7	96.3	96.8	97.5	97.5	▲
5	〃(販売区画数)	区画	3	0	累計1	累計3	累計6	累計8	▲
5	新規住宅建設数	戸	3	13	累計27	累計45	累計67	累計60	▲
5	空き家(中古物件等)の活用件数	件	3	6	累計23	累計45	累計57	累計20	▲
6	子育て世帯の転入数	世帯(人)	3	5(13)	累計16(53)	累計28(96)	累計43(146)	累計24(64)	▲
6	町外に居住する町内企業従業員の移住・定住数(再掲)	人	3	1	累計1	累計1	累計1	累計8	▲
7	デマンドバス・循環バス年間利用者数	人	3	7406	9,756	9,550	11,435	8200	▲
7	町内JR駅における1日あたり乗降客数	人	3	523	572	604	641	483	▲
8	自主防災組織の設立数	団体	3	22	22	23	23	25	▲
8	災害による死傷者数	人	3	0	累計0	累計0	累計0	累計0	▲
8	犯罪発生件数(年間)	件	3	7	21	22	27	現状維持・減	▲
8	交通事故死者数	人	3	0	累計0	累計0	累計0	0	▲
生活環境・生活基盤進捗状況 小計			17: ▲	4: ▲	2: ▲				

【指標の分析】

24本の指標項目のうち、約74%が「目標値以上」、約17%が「現状値以上 目標値未満」となっており、合わせて約91%が達成又は改善中となっています。

「現状値未満」の指標は、中期計画検証時同様2本で、全体の約8%となっています。「温室効果ガスの総排出量」と「犯罪発生件数」が低調となっています。

【定性的評価】

移住・定住施策においては、町分譲地の販売や新規住宅建設、空き家活用が功を奏し、4年連続の社会増を実現する大きな原動力となっていると考えられます。一方で、犯罪発生件数の高止まりやインフラ老朽化への懸念といった課題も顕在化しています。温室効果ガス排出量についても増加傾向にはありますが、今後公共施設を中心とした対策により改善が図られる見込みです。

また、地域公共交通については、デマンドバスや循環バス等の利用者は増加傾向にあります。鉄道については、町独自の利用促進策が図られながらも、施設や機能の維持管理経費が年々増大し、極めて深

刻な状況であることから、国や関係企業と連携した抜本的な対策が求められているところです。移動手段の確保は、町民の日常生活のみならず、福祉・医療分野へのアクセス維持という観点からも喫緊の課題です。

道路、橋梁、上下水道などの社会インフラの整備状況は順調に推移しているものの、全国的な老朽化による事故の発生等を背景に、将来的な不安を感じる住民の声も寄せられています。

【今後の方向性】

安全・安心な生活基盤の維持向上に向け、インフラ整備と環境負荷低減は両立を図っていく必要があります。特に、温室効果ガス排出量については、気候変動による災害リスクの増加に直結する重要課題であり、公共施設から集中的な削減対策を講じることで、脱炭素社会の実現に向けた先駆的なモデルを示していくことが重要です。

防犯・防災については、住民の安全意識の向上を促すことで地域社会が一体となった見守り体制を強化することで、犯罪の抑止に務めていく必要があります。

地域公共交通については、単なる「移動手段の維持」を超え、福祉・医療等の関連分野と連携した「持続可能な生活維持ネットワーク」の構築を引き続き目指していく必要があります。特に鉄道の存続問題は、町民生活の根幹に関わる課題であることから、関係機関との連携を密にし、持続可能性を最大化する抜本的な解決策を検討し続ける必要があります。

基本 施策	指標項目	単位	(年度)現状値	(年度)実績				目標値	進捗 状況	
				R5	R6	R7	R8	R8		
	【政策分野 VI 行財政運営】									
1	あびらチャンネルの視聴割合	%	28	46.5	-	98	92		90%以上	👉
1	町外向け動画の制作本数	本	3	27	7	30	44		15	👉
1	町外向け動画の再生回数	百回	3	714	308	355	287		R3比150%増	👉
1	町公式ホームページ閲覧数	百回	3	17,044	16,674	15,670	13,538		R3比150%増	👉
1	フェイスブック「いいね」の数	-	3	525	747	845	917		787	👉
2	町民参画の実施件数	件	3	23	15	17	16		25	👉
2	町職員による地域サポート制度の隊員数(再掲)	団体	30	15	15	14	14		18	👉
3	実質公債費比率	%	1~3	10.1	10.8	11.0	11.0		10.4	👉
3	公共施設の延床面積	万㎡	4	14.4	14.1	14	13.8		13.82以下	👉
	行財政運営進捗状況 小計	4:	👉	2:	👉	3:	👉			

【指標の分析】

9本の指標項目のうち、約44%が「目標値以上」、約22%が「現状値以上 目標値未満」となっており、合わせて66%が達成又は改善中となっています。

「現状値未満」の指標は、中期計画検証時から皆増の3本となっています。主に「情報発信」と「財政状況」に関する指標が低調となっている状況です。

【定性的評価】

「情報発信」に関しては、動画の製作本数や閲覧数等の定量的目標の達成に苦慮している状況です。しかし、当町への来訪者や移住者が一定数あることからすれば、必ずしも現行の指標が町のPR効果を適正に把握できているとは言い難い面があると考えられます。

行財政運営については、現時点において危険水準を示す数値ではないものの、指標上はやや悪化している結果であり、今後の推移に注視していく必要があります。

【今後の方向性】

情報発信に関しては、PR（町外への広報）と情報共有（住民への周知）という二つの観点を整理し、真の成果（アウトカム）を可視化できる新たな評価指標の設定に向けた検討が必要です。

財政運営については、これまでの安定的な基盤を維持しつつ、人口減少社会における 持続可能性を確保するため、事業の優先順位付けや効率的な執行を徹底し、細心の注意を払った健全運営を継続していくことが重要です。行政組織全体として、時代の変化に即した柔軟な運営体制を構築し、町民参画による協働のまちづくりを意識しながら、引き続き持続可能なまちづくりを支える基盤を強化していきます。

（３）まとめ

全分野を俯瞰すると、安平町は震災復興からコロナ禍を経て、実感のある“成長”を手にし、今後はその成長を持続可能で確固たるものにするフェーズへと移行する段階にあると考えられます。

『経済・産業』や『生活環境・生活基盤』においては、道の駅を核とした経済循環が生まれ、4年連続の社会増を実現するなど、力強い“成長の兆し”が顕れています。一方、『子育て・教育』や『人づくり・コミュニティ』においては、人口減少や地縁組織の衰退という構造的課題に直面しつつも、新たな移住者や多様な活動主体の参画により、コミュニティの“質的变化と深化”という新たな活力が生まれつつあります。

他方、出生率の低下に加え、インフラの老朽化、地域公共交通（特に鉄道存続問題）、医療機関の確保、財政の適正管理といった、社会構造の変化に起因する差し迫った課題も明確になっています。特に、地域医療や公共交通といった生活の根幹を支える分野においては、町単独による枠組みだけでは解決困難な事案も顕在化しており、今後は広域的な連携を模索するなど、時代に即した新たな適応戦略が求められています。

以上を踏まえ、今後は持続可能なまちづくりへの適応戦略として、次期計画においては、現状の社会情勢に適応し、その持続可能性を最大化するために次の対策が重要だと考えます。

①ハード・ソフトの両輪による最適化

施設整備とソフト事業の両面から、人口構成の変化（転入ニーズと少子化）に即した保育・教育体制や、持続可能な生活維持ネットワークの構築を図る必要があります。

②多様な主体との連携と自立支援

新旧住民や多世代が交わる場を創出し、ボランティアや地域活動団体が自律的かつ持続的に発展できるような伴走支援が重要です。特に、既存住民と新規転入者が協働できる環境を引き続き整えていく必要があります。

③近隣自治体との協働による『支え合い』のネットワーク強化

医療や交通といった単独での維持が困難な分野については、「地域の灯を守る」姿勢を堅持しつつ、隣接都市や国、関係企業との広域連携を深め、解決策を検討し続ける必要があります。

④健全な財政運営

人口減少社会を見据え、事業の優先順位付けと効率的な執行を徹底し、将来にわたり持続可能な行政組織・運営体制を強化していくことが重要です。

⑤評価手法のアップデート

数値指標の達成のみを追うのではなく、真の成果（アウトカム）を可視化・評価できる新たな指標へと見直す必要があります。

2. 住民満足度の分析(まちづくり町民アンケート結果より)

当該アンケート調査では、6つの政策分野をさらに細かく分類した「基本施策」ごとに、第2次計画期間における住民の皆さんの主観的満足度を測定しました。

【満足度の考え方】

- ・満足度を5ポイント、不満度を1ポイントとした5段階評価により回答いただいたものを集計し、平均点を算出したもの。
 - ・第2次計画策定時も同様の調査を実施しており、前回結果との比較を行った。
 - ・緑色が濃くなるほど（矢印が上向き）平均より高く、黄色（右向き）が概ね平均値、赤色が濃くなるほど（矢印が下向き）平均より低いことを表している。
- ※将来にわたる重要度も同様に調査しているもの。

全体平均	➡ 3.18	➡ 3.65	➡ 3.07	➡ 3.71	0.11	-0.06
1 子育て・教育分野						
項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
子育て支援	➡ 3.58	➡ 3.84	➡ 3.28	➡ 3.88	0.30	-0.04
就学前教育	➡ 3.64	➡ 3.90	➡ 3.28	➡ 3.88	0.36	0.02
学校教育	➡ 3.29	➡ 3.95	➡ 3.69	➡ 4.07	-0.40	-0.12
追分高等学校支援	➡ 3.19	➡ 3.31	➡ 3.15	➡ 3.48	0.04	-0.17
家庭教育支援	➡ 3.43	➡ 3.82	—	—	#VALUE!	#VALUE!
青少年教育	➡ 3.29	➡ 3.71	—	—	#VALUE!	#VALUE!
平均	➡ 3.40	➡ 3.76	➡ 3.35	➡ 3.83	0.05	-0.07

全体として、最も満足度（平均点）が高い分野となっています。

後期基本計画KPIにおける達成・改善率では、全分野の平均よりもして回っていることから、KPI上は伸び代があるもの、住民は比較的満足しているという状況が見えてきます。つまり、まだまだ『成長の可能性を秘めた分野』と考えられます。

2 人づくり・コミュニティ分野						
項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
地域コミュニティ	➡ 3.27	➡ 3.58	➡ 3.26	➡ 3.53	0.01	0.05
協働のまちづくり	➡ 3.24	➡ 3.40	➡ 3.14	➡ 3.37	0.10	0.03
生涯学習・社会教育	➡ 3.28	➡ 3.49	➡ 3.18	➡ 3.65	0.10	-0.16
芸術文化	➡ 3.08	➡ 3.34	➡ 3.18	➡ 3.65	-0.10	-0.31
スポーツ振興	➡ 3.20	➡ 3.58	➡ 3.18	➡ 3.65	0.02	-0.07
男女共同参画(人権)	➡ 3.07	➡ 3.42	➡ 3.09	➡ 3.47	-0.02	-0.05
交流	➡ 2.99	➡ 3.18	➡ 3.09	➡ 3.33	-0.10	-0.15
平均	➡ 3.16	➡ 3.43	➡ 3.16	➡ 3.52	0.00	-0.09

前回から満足度にほとんど変化がなく、「どちらでもない」という中間点に寄っている傾向です。

後期基本計画KPIにおける達成・改善率では、全分野平均を下回っていることから、KPIも低く、満足度も低い状況となっており、さらに重要度までも低い結果であることから、『構造的な課題』があることや、『当該分野のあり方』そのものが問われるという、根本を見つめ直す必要性について検討しなければならない状態と考えられます。

3 経済・産業分野							
項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)		
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	
農林業	➡ 3.05	➡ 3.65	➡ 2.98	➡ 3.54	0.07	0.11	
企業誘致	➡ 2.76	➡ 3.56	➡ 2.72	➡ 3.72	0.04	-0.16	
産業振興・雇用就労	➡ 2.95	➡ 3.64	➡ 2.64	➡ 3.73	0.31	-0.09	
観光	⬆ 3.58	⬆ 3.88	⬆ 2.58	⬆ 3.66	1.00	0.22	
商業	➡ 3.34	⬆ 3.83	➡ 2.23	⬆ 3.98	1.11	-0.15	
平均	➡ 3.14	➡ 3.71	➡ 2.63	➡ 3.73	0.51	-0.01	

「観光」と「商業」がいずれも1ポイント程度上昇し、最も向上した項目となっています。

後期基本計画KPIにおける達成・改善率は、100%となっており、KPIと満足度が完全にかみ合った分野といえます。よって、「観光・商業」以外の項目（農林業など）への横展開（波及）させ、安平町の強みの一つとして、より成長させていくことができるのではないかと考えられます。

4 健康・福祉分野							
項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)		
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	
保健	⬆ 3.58	⬆ 4.06	⬆ 3.69	⬆ 4.07	-0.11	-0.01	
医療	➡ 2.74	⬆ 4.11	➡ 2.82	⬆ 4.26	-0.08	-0.15	
地域福祉	➡ 3.25	➡ 3.70	➡ 3.25	➡ 3.81	0.00	-0.11	
しょうがい福祉	➡ 3.15	➡ 3.67	➡ 3.13	➡ 3.78	0.02	-0.11	
高齢者福祉	➡ 3.26	⬆ 3.83	➡ 3.13	⬆ 4.00	0.13	-0.17	
社会保障	➡ 3.24	⬆ 3.86	➡ 3.12	⬆ 4.00	0.12	-0.14	
平均	➡ 3.20	⬆ 3.87	➡ 3.19	⬆ 3.99	0.01	-0.12	

「医療」は、依然として3ポイントを下回る状況ですが、「保健」は引続き高評価となっています。

後期基本計画KPIにおける達成・改善率では、全分野平均を上回っています。満足度は「保健」のみが全体を押し上げている中での概ね平均となっており、「保健」以外については指標と住民の実感がかみ合っていない可能性があると考えられます。

5 生活環境・生活基盤分野							
項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)		
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	
環境・景観保全	➡ 3.04	➡ 3.80	⬆ 3.52	⬆ 3.97	-0.48	-0.17	
循環型社会	➡ 3.09	➡ 3.61	➡ 2.77	➡ 3.65	0.32	-0.04	
土地利用	➡ 2.95	➡ 3.34	⬆ 3.21	➡ 3.87	-0.26	-0.53	
生活インフラ	➡ 3.05	⬆ 4.09	⬆ 3.51	➡ 3.76	-0.46	0.33	
住環境整備	➡ 2.78	➡ 3.75	➡ 3.08	➡ 3.56	-0.30	0.19	
移住・定住対策	➡ 3.12	➡ 3.53	—	—	—	—	
地域公共交通	➡ 2.90	⬆ 4.00	➡ 2.46	⬆ 4.13	0.44	-0.13	
消防防災・交通安全・消費生活	➡ 3.23	➡ 3.68	⬆ 3.43	⬆ 4.05	-0.20	-0.37	
平均	➡ 3.02	➡ 3.72	➡ 3.14	➡ 3.86	-0.12	-0.13	

全体として満足度が最も低く、かつ、前回調査よりも低下した唯一の分野となっています。

後期基本計画KPIにおける達成・改善率では、全分野平均を上回っているものの満足度は低く、「健康・福祉分野」同様、指標と住民の実感がかみ合っていない可能性があると考えられます。

6 行財政運営分野						
項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
情報発信	➡ 3.33	➡ 3.53	—	—	—	—
住民サービス	➡ 3.08	➡ 3.64	➡ 3.19	➡ 3.46	-0.11	0.18
行財政運営	➡ 3.12	➡ 3.71	➡ 2.98	➡ 3.79	0.14	-0.08
平均	➡ 3.18	➡ 3.63	➡ 3.09	➡ 3.63	0.09	0.00

町民にとっての実感が少ない分野であることから、平均的な結果に留まっていると推測します。

後期基本計画KPIにおける達成・改善率では、全分野平均を下回っていることから、KPIも低く、満足度も高くない状況となっており、さらに重要度も平均的であることから、『成果として見えにくいことから、町民にとっても実感が感じられない』という、『指標の設定や成果のあり方』が根本的に問われている分野であると考えられます。

以上の通り、本項の分析では、住民の主観的評価であるアンケート結果に加えて、1.の客観的指標（KPI）の進捗と照合し俯瞰しました。その結果、一部の政策分野において、行政の掲げる指標の達成度と住民の体感満足度に乖離が生じていることが明らかとなりました。今後は、この『数値の進捗』と『住民実感』のギャップを認識することで、施策の効果的な再配分や見直しを図る視点が不可欠です。

なお、次のページでは、満足度をエックス（横）軸、重要度をワイ（縦）軸にプロットした図を用い、前回との変化を比較しています。

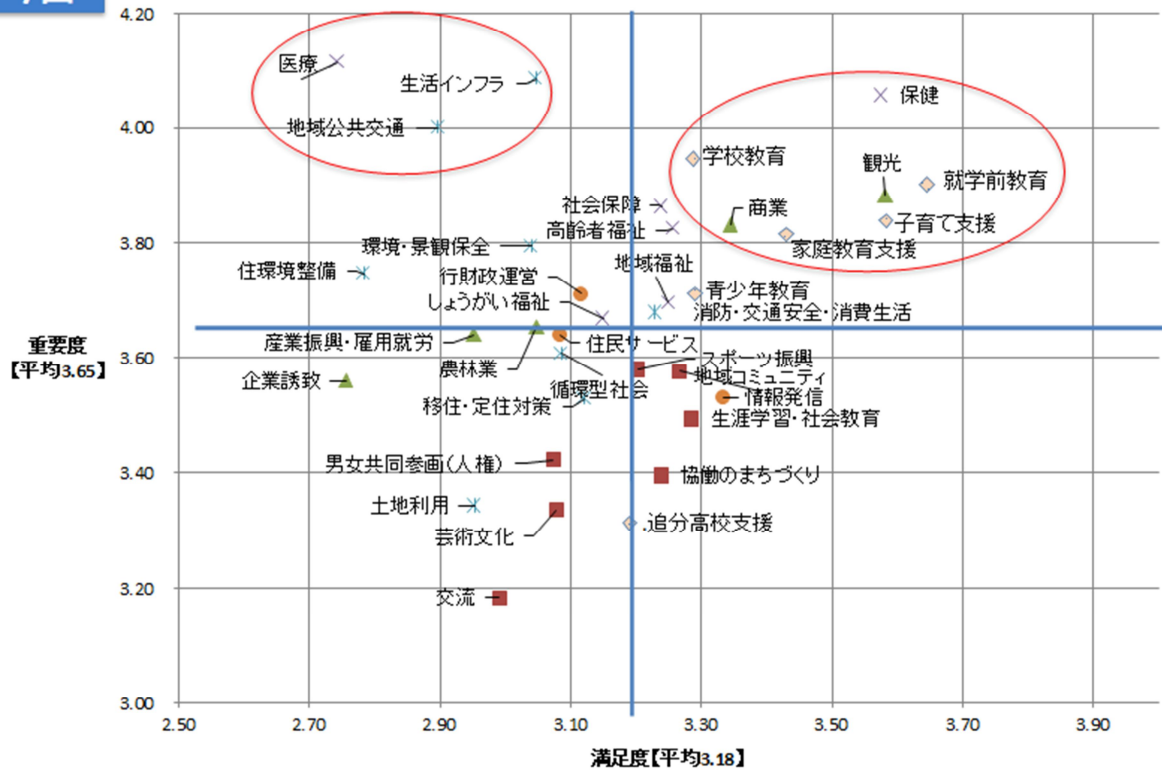
「医療」と「地域公共交通」の分野は、依然として「重要度は高いが満足度は低い」ゾーンに位置しています。「生活インフラ」はいくつかの項目が統合されたため単純比較はできませんが、満足度が落ち込んできている状況です。一方、「満足度も重要度も高い」ゾーンには、依然として「保健」が位置し、新たに教育関係の各項目に加え、「商業」と「観光」も入ってきました。

一般的に、左上のゾーンは「満足度は平均より低い、重要度は高い」エリアであり、現状のサービスのあり方を見直して水準を向上させる『サービス強化の必要性』領域、右上のゾーンは「満足度も重要度も、ともに平均より高い」エリアであり、現状の施策の方向性を軸にして検討すべき『現状維持又は成長領域』領域、左下のゾーンは「満足度も重要度も、ともに平均より低い」エリアであり、そもそものあり方を見直す必要がある『重点改善』領域、右下のゾーンは「満足度は平均より高いが、重要度は低い」エリアであり、施策の進め方としては積極的というよりは現状の水準を維持しながら『コストカット』を目指す領域とされています。

次期計画においては、これらの結果についても考慮しながら、限りある資源を適切に、最大限活用しながら行財政運営を進めていく必要があります。

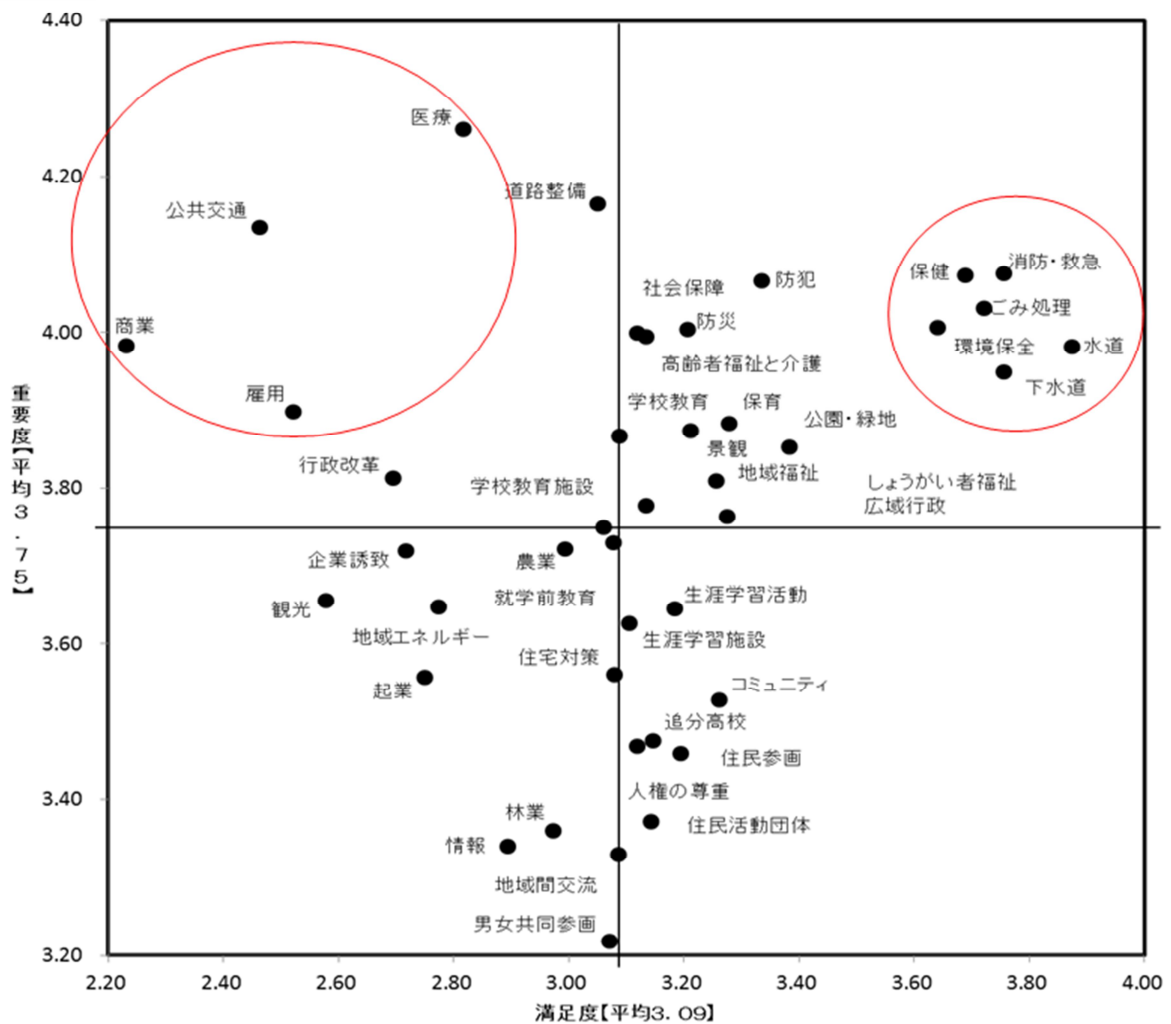
今回

政策満足度と将来重要度_プロット図



前回

政策満足度と将来重要度 (全年齢合計プロット図)



3. 町民との対話

令和8年3月、住民基本台帳から無作為抽出した300名を対象に「町民まちづくり会議」への参加希望者を募り、ご応募いただいた10名の参加者とともに、アンケート結果などに基づく第2次計画の振り返りを行いました。また、住民参画状況等をモニタリングする「町民自治推進委員会」の委員とも意見交換を行いました。

【凡例】「・」：町民まちづくり会議での意見 ○：町民自治推進委員会での意見

政策分野Ⅰ 子育て・教育

【2 就学前教育】

・自然と共生するユニークな教育環境は町外からも注目を集めている。単なる宣伝文句ではなく、子どもたちが「ワクワクして通える」実態を伴った強みであり、教育を軸としたまちづくりは着実に成果を上げているという実感がある。

【3 学校教育】

・早来学園の開校などは、10年前にはなかった圧倒的な強みである。
・今後は、幼小中の連携深化が期待される。

【4 追分高等学校】

・道内の地方校が苦戦する中で高い入試倍率を維持しており、独自の価値が確立されつつある。

政策分野Ⅱ 人づくり・コミュニティ

【1 地域コミュニティ】

・行政が関与しなくても、町民自らが主体的に取り組むことができる機会（合唱やフィットネスなど）がたくさんある。
・移住者どおしの集まりもあるなど、コミュニティが充実している。
・軽種馬産業等で働く外国の方が急増しており、労働力として不可欠な一方、文化の違いから住民が抱く「漠然とした精神的不安」が、10年前にはない新たな課題である。
・自治会/町内会の加入率の低下に加え、「誰が担当か分からないため会費を払いたくても払えない」「ゴミ出しの相談ができない」といった、新住民との接点づくりの難しさがある。

【2 協働のまちづくり】

・20名を超える（R8.3末現在）協力隊員の受け入れと、卒業生の多くが定住・起業（うどん店、ビール醸造等）している事実は、町の挑戦文化の象徴である。
・NPOが増えたことは、10年前との大きな変化である。
・一方で、PTAが解体したり、自治会/町内会はあるが子ども会とはといった変化もある。
・お祭りなどが年々縮小傾向にあり、かつては露店がずらりと並んでいた時代と比べ、子どもの数や出店数など、にぎわいが減っていると感じる。

【3 生涯学習・社会教育】

・スポーツセンターのジム設備が非常に充実しており、「混まない・安い・綺麗」という理由で町外からも利用者が来るほど魅力的である。
・早来町民センターに合宿所機能ができ、プール・ジム・宿泊施設が一体となって、夏の涼しさを活かして道外のチームを呼び込むなど、スポーツ合宿の拠点として機能し始めている。

【5 スポーツ振興】

・部活等で全国的に活躍してる人もいるが、町の皆さんの実感としては薄いのかもしれない。
・部活動が地域クラブへ移行した中で、子どもの送迎（アビーバスの利用や親同士の車出し）が課題となっていると感じる。

【7 交流】

・10年前に課題として挙げられていた「旧町意識」は、「実生活の中で感じることはない」という印象を持っている。

○地域格差（早来・追分・安平・遠浅）について、合併から20年経つが依然として地区ごとの意識差があると感じる。

政策分野Ⅲ 経済・産業

【1 農林業】

○観光や教育が目立つ一方、基幹産業である「農業」に関する議論や発信が少ないと感じる。

【3 産業振興・雇用就労】

・中夜間人口比率が高ということは、「仕事や学校はあるが、住む場所は利便性の高い隣接市を選ぶ」という構造が生まれている。

【4 観光】

・なの花畑は強力な集客力を持つ一方、渋滞や農地への侵入といったオーバーツーリズムの課題がある。

【5 商業】

・商業の満足度が上がった要因として「道の駅」の存在が挙げられ、道の駅で名産品を知ることによって実際に購入する流れがうまれているという実感がある。

・新たなドラッグストアの進出や新規創業支援制度の充実も、満足度が向上した要因と考えられる。

・SNS等で情報発信する移住者等の増加により、町内の新しいカフェや飲食店への来店が促され、「新しいことに挑戦できる空気感」が町の新たな活力となっている。

政策分野Ⅳ 健康・福祉

【2 医療】

・総合病院や産科・小児科の欠如は、高齢層のみならず現役世代の強い不安要素である。

・他方で、都会への集約化が進む中、物理的距離に都市地域隣接する恵まれた立地をを活かした戦略的な仕掛けが求められる。

政策分野Ⅴ 生活環境・生活基盤

【1 環境・景観保全】

・メガソーラーやソーラーパネルに対しては、環境破壊の文脈で捉える方もいるため配慮が必要。

・シマエナガは、町内でも目撃例があるなど、自然豊かな環境の象徴として人気がある。

【5 生活インフラ】

・水道事業は、町民の命にかかわる重要なインフラであり、町が高品質で提供できている。引続き町民の手で守り抜くべき重要な資産である。

・「郊外のインターネット環境の遅れ」は既に克服され、現在ではテレワークも可能なインフラへと進化した。

○公園について、遊具の老朽化による撤去が進んでいる。管理（草刈り）の負担を減らす工夫や、全天候型の遊び場、ボール遊びができる広場へのニーズがある。

【6 移住・定住対策】

・お試し暮らし住宅利用者の意見にあった「ほどよい田舎」が、安平町の目指すべき姿ではないか。

・実際に住んでみると、生活の負担が軽い点が大きな強みである。

・直近4年連続で社会増。人口推計シミュレーションよりも減少幅が抑えられている。

・空き家があるということは、むしろ移住者などを受け入れるキャパシティと捉えられる。

・隣接する千歳市へのラピダス進出は、追分地区などを中心とした通勤圏内としての人口流入が期待できる。

○空港や高速道路、鉄道に近い利便性を活かして、「ほどよい田舎」としてどう維持・PRしていくかが鍵となる。

○お試し暮らし利用者が表現した「とかいなか」という言葉は、何もないようでは実は空港や都市部へのアクセスが抜群に良いという町の強みを象徴している。

【7 地域公共交通】

・JR石勝線・室南線の維持問題は、学生の通学や住民の足に直結する深刻な課題であり、自治体間の連携や国への働きかけが不可欠。

・デマンドバス等町独自の施策は、一定効果があると思う。

【8 消防防災・交通安全・消費生活】

・2018年北海道胆振東部地震を経験した今、「災害がない」と想定するのではなく、気候変動や地震を前

提とした安心・安全の構築が町の特色になるべきだ。

・町内を縦断する唯一の幹線道路である国道234号線は、大型車両の通行が激しく冬季間の対策も不十分であり、国に対して幅員の拡幅や休憩スポットの設置など安全性の向上をより強く求めるべきだ。

○街灯について、幹線道路は明るい、が、一歩中に入ると真っ暗な場所がある。通学路の安全確保のためにも改善が必要。

政策分野VI 行財政運営

【3 行財政運営】

○主語を町民に、役場がやる計画ではなく、町民が自分事として捉えられる取り組みが重要である。

安平町では、町の憲法と言われる「まちづくり基本条例」に基づき規定される「町民参画推進条例」により、町民の皆さんに参画していただいた中での協働のまちづくりを基本理念として取り組みを進めてきています。

アンケート調査や各種の委員会・審議会等においては、特定の方々の回答、限定された方々の参画となってしまう限界を補うため、無作為抽出により参加者を募る方法によりご意見を頂戴してきたものが、本項でまとめた内容です。

4. 最上位目標の検証

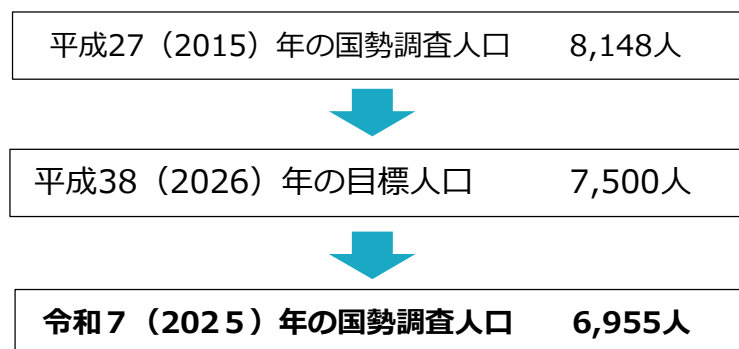
ここまで、第2次計画で新たに導入した成果指標や、この10年間で町民の皆さんが捉えているまちの状況や変化について概観してきました。

次に、これらの積み重ねてきた個別の成果が、本計画の最上位目標を達成にどのように結びついたかを確認します。

①『人口7,500人を維持』について

計画策定期における直近の平成27（2015）年の国勢調査による人口は、8,148人でした。そこで、当時推計していた人口ビジョンの将来像に基づき、平成38（2026）年の目標人口を7,500人と決めました。

令和8（2026）年5月29日に国勢調査の速報値が発表され、その人数は6,955人だったことから、目標値を545人下回る結果となりました。なお、令和8（2026）年5月31日現在の住民基本台帳上の人口は、7,221人となっています。



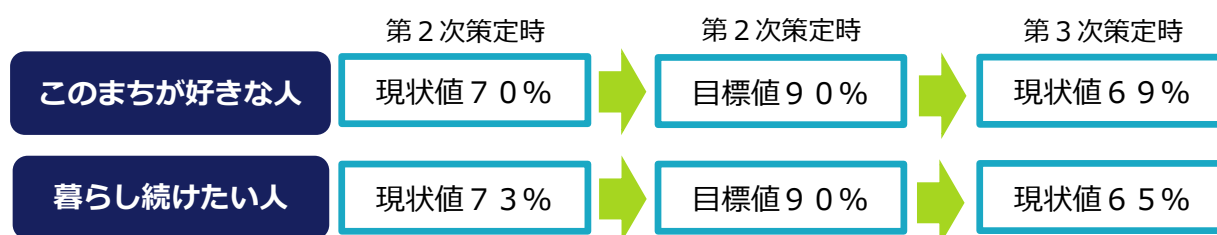
（令和8年5月29日発表 速報値）

【参考】 令和8年5月末住民基本台帳上の人口 7,221人

②『安平町が好きな人・暮らし続けたい人を90%へ高める』について

将来像を実現させるためには、住んでいる場所を自らより良くしようとする当事者意識持ち合わせた町民のまちに対する「愛着と誇り（シビックプライド）」を高めることが重要であることから、策定時に調査を実施した結果、「このまちが好きな人」が70%、このまちに「暮らし続けたい人」が73%であったことから、それぞれ90%へ引き上げることが目標とされました。

令和7（2025）年5月に調査を実施したところ、それぞれ69%、65%となり、目標値を大きく下回る結果となりました。



5. 本検証に対する総括（10年間の総まとめ）

【復興と挑戦の10年】

本計画は、平成30（2018）年9月に発生した北海道胆振東部地震からの復興という、まちの根幹を揺るがす未曾有の試練から始まったと言っても過言ではありません。しかしこの間、安平町は震災の辛さを知ったからこそ生まれてきた意志と、町民一人ひとりの絆を支えに、「ピンチをチャンスに」という合い言葉のもと、復興を単なる「過去への回復」ではなく「未来の創造」へと進化させるべく、一歩ずつ着実に歩みを進めてきました。この間、コロナ禍にも見舞われ、さらには物価高騰といった社会情勢の荒波に直面しながらも、挑戦し続ける町民の皆さんとともに歩んできた10年でした。

【指標の分析：10年間の達成状況の検証】

計画期間を通じた指標の達成状況は、以下の通り着実に向上しています。

前期計画期： 指標達成・改善率 約58%

中期計画期： 指標達成・改善率 約69%（前期比 +11ポイント）

後期計画期： 指標達成・改善率 約82%（中期比 +13ポイント）

この推移は、震災からの復興過程において発生した急激な人口流出や、その後のコロナ禍という厳しい環境下にあっても、町全体として着実に施策が前進し、成果が積み上げられてきたということが言えます。

【これまでの歩みと背景：3つの基本計画期】

この10年は、震災復興とコロナ禍の経験を経て成長し、それを持続可能で確固たるものにする「転換期」であったと捉えられます。これはまさに、時代と環境の変化に適応し続けきた歴史であると言えます。

〔試練の前期計画〕

震災による住居やインフラ・公共施設等の甚大な被害により、急激な人口流出による地域活力の低下に直面しました。直後の混乱期において、迅速な生活再建と復興の土台づくりに注力しました。計画期

間を2年とし、次の4年へバトンをつなぐための機動的な行政運営を目指しました。

〔回復の中期計画〕

中期計画の中に「復興まちづくり計画」を位置づけ、復興とまちづくりを一体的に推進しました。前期計画の遅れを取り戻すように、数多くの制約があった中でも約7割の指標を達成・改善し、復旧・復興を日常的なまちづくりへと軌道に乗せました。

〔成長の後期計画〕

道の駅を核とした経済循環の創出や4年連続の社会増を実現するなど、復興から「実感のある成長」へと転換を果たしました。

【全体評価と考察】

第2次計画では成果指標（KPI）を導入し、政策分野ごとの成果の可視化を進めてきました。その結果、人口の4年連続社会増や令和7年の人口増加、成果指標の向上など一定の成果が認められますが、最上位目標として掲げた「人口7,500人の維持」および「愛着度・定住意向90%」の達成には至りませんでした。

これらの未達成要因は一樣ではなく、また特定も困難です。人口減少については、全国的な社会構造の変化や度重なる外的要因も極めて大きく影響し、単独の自治体政策で対応することの難しさを再確認しました。また、愛着度や定住意向については、行政が提供する施策の成果と、町民皆さん一人ひとりが日常で感じる幸せや満足度の間に、必ずしも直接的な因果関係が存在しない可能性も示唆されています。しかし、これらを単に外部要因に帰することなく、施策の結果が個人の生活実感や幸福度にどう還元されるのか、引き続き問い直していく必要があります。

この反省から、第3次総合計画においては、各施策がどのように愛着や定住意向の高まりへつながるのか、「施策→成果→最上位目標」という因果関係をより明確にしていく必要があります。次期計画では、策定方針でも言及しているとおり、町民の皆さんの幸せ（ウェルビーイング）を最上位目標とした体系的な計画を目指します。

なお、「人口」については、様々な外的要因の影響を強く受け、行政活動との直接的因果関係を定義することが困難な指標であると考えられます。今後は、愛着や定住意向（皆さんの幸せ＝ウェルビーイング）の向上に取り組んだ結果として表れる「結果的指標」として捉え直し、持続可能なまちづくりを推進していきます。

この10年を通じて、安平町は「復興からの成長」フェーズから「持続可能な成長」フェーズへと移行してきました。次期計画では、めまぐるしく変化する時代の流れに適応しながら、これまでの歩みで培ってきた「逆境に屈しない力」と「成長と変化の芽」をさらに強固なものにしていく必要があります。

第2次総合計画のロジックモデル(これまでの考え方・進め方)

～子育て・教育を強みとして、若者・子育て世代に選ばれ、みんなでまちを育てる好循環をつくる～

1. 安平町の強み・優先戦略

他の自治体とも
勝負できる強みとして、
最優先分野に位置づけ

子育て・教育



6つの政策分野の中で
最優先分野として推進

6つの政策分野

- I 育て・教育
- II 人づくり・コミュニティ
- 経済・産業
- 健康・福祉
- 生活環境・生活基盤
- 財政運営

基本的な考え方

子育て・教育を核に、
安平町の魅力を高め、
選ばれるまちを目指す

2. 外に向けた戦略(人を呼び込む)

子育て・教育をフックに、町に来てもらい、支えてもらう

子育て・教育の 充実



安心して子どもを産み
育てられる環境づくり

回遊交流の促進



町の魅力を知ってもらい
訪れてもらう・
関わってもらう

移住定住の促進



住んでみたい、
住み続けたい町へ



メインターゲット：子育て世代
(若い世代・ファミリー層)

目指した将来像(第2次総合計画)

将来にわたって、子どもの声が地域にひびき、
若者・子育て世代でにぎわうまち

育てたい・暮らしたい・帰りたい
みんなで未来へ駆けるまち



3. 内に向けた戦略(まちを支える力を育む)

住む人の愛着や参加が、まちの力になり、
住み続けたいにつながる

町への愛着の醸成



ふるさとへの誇りや愛着を育む

まちづくりへの参加・協働



地域活動やボランティア、
まちづくりに関わる人が増える

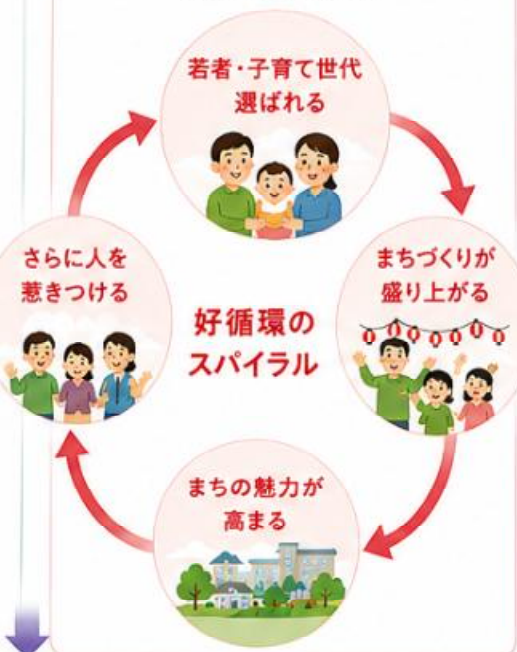
住み続けたい意向の向上



暮らしやすさを実感し、
住み続けたいと思える

4. 好循環のイメージ

人が集い、まちが元気になる
好循環を生み出す



5. 目指した成果(最終的に実現したいこと)

人口減少の抑制
(社会増の実現)



このまちが好きな人
(愛着度)の向上



暮らし続けたい人
(定住意向)の増加



地域コミュニティの維持・活力の向上
持続可能なまちの実現



まとめ

第2次総合計画では、
「子育て・教育」を強みとした戦略を起点に、
「交流・移住定住の促進」と「町民の愛着・参加の向上」を進め、
人と地域がつながる好循環をつくることで、持続可能なまちの実現を目指してきました。

第2次総合計画のポイント

- ✓ 子育て・教育を最優先に位置づけ、選ばれるまちを目指した
- ✓ 外に向けて人を呼び込み、内側から支える力を育てた
- ✓ 人と地域がつながる好循環により、地域の活力向上を目指した

次のステップ(第3次総合計画へ)

これまでの成果と課題を踏まえ、
「住民一人ひとりの幸せ(ウェルビーイング)」を
より重視した計画へと進化していきます。